インフォシスFinacleが名誉ある「最優秀コア・バンキング・テクノロジー」賞を受賞

インド・バンガロール(2013年9月13日): インフォシスが提供するユニバーサル・バンキング・ソリューションのFinacleは、世界中の銀行の技術責任者20名で構成された審査委員会から贈られる「最優秀コア・バンキング・テクノロジー」賞を2回連続で受賞しました。今回の受賞は、Financial Timesより出版されているThe Bankerが毎年主催するInnovation in Technology and Transaction Banking Awards 2013の中で発表されました。Finacleはその充実した機能と先進的なサービス指向アーキテクチャーが評価されて審査委員会より選ばれました。

The BankerのInnovation in Technology and Transaction Banking Awards 2013は、金融機関が顧客により迅速かつ効率的にサービスを提供できるようにする新しい方法を開発した企業を称えるための賞です。銀行業務を支えるテクノロジーの革新的な考え方や、それが業務、従業員、顧客などのエコシステム全体に与えるプラス効果を評価します。

当社の推薦は、シンガポールを本拠とするアジアの大手金融サービス・グループDBS銀行により単独で提出されたものでした。DBS銀行は、シンガポールそして周辺的主要市場へFinacleが成功裏に導入されたことを受けて今回の推薦に至りました。Finacleの導入は同行にとって、コア・バンキング商品の品揃えをさらに強化してトップの座を揺るぎないものにし、全地域に標準運用モデルの導入、そして様々なレガシー・プラットフォームの集約を通じてテクノロジー・プラットフォームを補強するための戦略の一環でした。

DBSテクノロジー部門インスティテューショナル・バンキング・グループ・マネージング・ディレクター ン・ベン・キム氏

「インフォシスFinacleと当行のパートナーシップは、当行の中核銀行業務システムを強化し、全地域の全支店に標準運用モデルを導入するための戦略の一環としてスタートしました。現在、DBSは、アジアの中ではコマース・バンキング顧客とコーポレート・バンキング顧客の両方に対応可能なコア・バンキング・テクノロジーの導入に成功している数少ない銀行の中の1つです。ローン処理の自動化拡大およびコントロールの改善や下流の報告／分析用により完全かつ正確なデータの処理の実現など様々な面でパフォーマンスの改善が見られ、顧客により良い体験を提供できるようになりました。この賞は、両者のパートナーシップの努力と結果が認められた証です。」

The Bankerテクノロジー担当編集者デュグ・タババン氏

「コア・バンキング・プロバイダーにとって市場は当然のことながら険しい状況です。しかし、インフォシスはFinacleプラットフォームにより競合他社と一線を画すことに成功しています。銀行は、未だ達成されていない法令順守の対応や、より良い顧客体験を提供するチャネル統合および革新的商品開発に対する需要およびニーズに迫られている反面、既にギリギリの予算を維持しなければなりません。インフォシスは、このような顧客の需要を満みたす信頼できるパートナーとして自らの地位を確立しました。」

インフォシスFinacleグローバル・ヘッド ハラゴバル・M

「2年連続で最優秀コア・バンキング・テクノロジーに選ばれたことは、お客様により高度なイノベーションを提供することを第一とするFinacleの決意が反映されていると思います。今日の銀行は極めて複雑な事業そして経営が強いられています。テクノロジー主導型イノベーションはシンプル化への重要なステップであり、このような不安定な環境下でも銀行が差別化を図り成功できるように導いてくれます。DBSに推薦して頂いたことは光栄なことであり、両社間に強力なパートナーシップが築かれている明確な証拠だと思います。」

当社について

インフォシスはビジネス・コンサルティング、テクノロジー・ソリューション、アウトソーシング・ソリューションのグローバル・リーダーです。インフォシスは30か国以上の国々のお客様が最新のビジネス・トレンドよりも一歩先を行き、競合他社をしのご活躍が出来るように支援を提供します。戦略的インサイトと卓越した実行力を融合させた革新的なソリューションを共同創造することで、お客様が移り変わりの激しい世界に対応し、成長できるようにサポートします。

www.infosys.com を訪れ、年商74億ドルおよび15万5000人以上の社員をかかえるインフォシス (NYSE: INFY) が今日どのように未来企業を構築しているかお確かめ下さい。

セーフハーバー条項

本リリースに掲載されている報告書の一部は、当社の将来的な成長を予測するものであり、多くのリスクや不確定要素が介在しているため、実績と大きく異なる場合があります。このようなリスクと不確定要素には、収益の変動、外国為替レートの変動、当社の成長管理能力、費用効率に影響する可能性のあるIT サービス分野における競争の激化、インドにおける人件費の高騰、高い技能をもつ専門的な人材を確保する当社の能力、固定価格・固定時間による契約における時間や経費の超過、顧客の集中化、出入国制限、業界セグメントの集中化、国際業務を管理する当社の能力、当社の主力分野であるテクノロジーの需要低下、通信ネットワークの崩壊あるいはシステムの故障、企業買収を成功させる当社の能力、当社サービス契約に対する損害賠償責任、戦略投資した企業の業績、政府援助の打ち切り、政治不安および地域紛争、インド国外での増資・企業買収に対する法的制限、当社知的所有権の不正使用、この業界に影響を与える経済情勢などが考えられます。当社の将来的な業績に影響すると思われるその他リスクについては、2012年会計年度(2013年3月31日付)年次報告書(Form 20-F)や2013年第1四半期(2013年4月-6月期)の四半期報告書(Form 6-K)を含め、米国証券取引委員会へ提出された当社報告書に詳細に記載されています。これらの報告書は、www.sec.gov でご覧いただけます。インフォシスは、米国証券取引委員会や当社株主への報告書など、書面および口頭により将来の展望を適宜発表する場合がありますが、当社により随時発表された将来の展望について更新する義務を負わないものとします。

連絡先

インフォシスリミテッド日本支店
マーケティング マネージャー 安藤
Tel:03(5545)3251 Email:jo_ando@infosys.com